

# 西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第506号 平成28年11月・12月



『羽村の秋』 古川朋靖

## 目 次

	頁		頁
1) 感染症だより	西多摩保健所 … 2	7) 理事会報告	広報部 … 16
2) 専門医に学ぶ	山上あゆむ … 8	8) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 20
3) 広報だより	栗原教光 … 11	9) 表紙のことば	古川朋靖 … 24
4) 連載企画	近藤之暢 … 11	10) お知らせ	事務局 … 24
5) 学術講演会予定	学術部 … 13	11) あとがき	松崎 潤 … 25
6) 西多摩医師会 写真・絵画展	写真部 … 14		

## 感染症だより

### ■ 〈全数報告 H28. 第 31 週～第 34 週〉

平成 28 年第 31 週 (8.1-8.7) から第 34 週 (8.22-8.28) の間に診断された感染症について、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 3 人 (肺結核 1 人、頸部リンパ節結核 1 人、無症状病原体保有者 1 人。年齢は、20 代 1 人、30 代 1 人、60 代 1 人。性別は、男性 3 人。ベトナム人 1 人、ブラジル人 1 人)

(三類感染症) 腸管出 s 血性大腸菌感染症 1 人 50 代女性 無症状病原体保有者 同居夫の接触者検便で発見。

(五類感染症) 梅毒 2 人 (早期顕性梅毒 1 人、無症状病原体保有者 1 人。年齢は、40 代 1 人、90 代 1 人。性別は、男 1 人、女 1 人。推定感染経路は、海外での性的接触 1 人、不明 1 人。)

### 〈管内の定点からの報告〉

(人)

	31 週	32 週	33 週	34 週
	8.1～8.7	8.8～8.14	8.15～8.21	8.22～8.28
RS ウイルス感染症				
インフルエンザ				
咽頭結膜熱	2	2	1	3
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	5	2	3
感染性胃腸炎	16	5	17	15
水痘	1	1		
手足口病	3	5	1	2
伝染性紅斑				
突発性発しん	1	2		3
百日咳				
ヘルパンギーナ	28	16	10	19
流行性耳下腺炎	7	2	6	1
不明発疹症				1
MCLS				
急性出血性結膜炎				
流行性角結膜炎		1	2	
合 計	64	39	39	47

#### 基幹定点報告対象疾病

マイコプラズマ肺炎 6 人 (1～4 歳男性 3 人、5～9 歳女性 2 人、10～14 歳女性 1 人)

### 〈コメント〉

#### ① ヘルパンギーナは流行中です。7 月 21 日に東京都から警報が出されました。

夏かぜの代表的な疾患であるヘルパンギーナについて、都内の小児科定点医療機関からの第 28 週 (7/11～7/17) における患者報告数が、都の警報基準を超え 7 月 21 日東京都は警報を出しました。東京都では第 22 週以降急増しており、大きな流行となった 2012 年や 2014 年と重なる流行曲線を描いていましたが、第 29 週から頭打ちとなり第 31 週から減少に転じ、第 34 週に少し再上昇しました。西多摩でも東京都と同様の動きを見せており第 32 週から減少に転じ第 34 週に再上昇しましたが、その上昇幅は僅かで、上記の表には載せていませんが第 36 週には再び減少しています。このまま今年の流行は終息していくものと思われます。

流行性耳下腺炎について、感染症研究所は 6 月 27 日までに、前回の流行 (2010-11 年) に次ぐ流行状態となっているとの見解を発表し、今夏にかけて患者が多い状態が続くとの予想を発表しました。

東京都では高い値が続き第30週に比較的なだらかなピークとなりその後減少傾向が続いていますが、まだ高い値となっています。西多摩では、去年の第41週以降高い値が続いていますが、今年になってから減少傾向にはありますが、時々高い値となることがありますが、人口規模が小さいので流行曲線がガタガタするのは仕方がないことです。

## ② 急速な麻疹患者の発生増加

様々なメディアで報道されたことですが、昨年 WHO により麻疹排除国と認められたこの日本において、短期間のうちに麻疹感染の拡大事件が複数起こりました。一つは、兵庫県西宮市の19歳男性が、千葉県幕張メッセにて8月14日に開催された2万人規模のコンサートに参加し感染が拡大した事例。もう一つは、関西国際空港内にある事業所に勤務する20歳代の女性が麻疹で入院したという報告を受けた地元保健所が調査すると少なくとも16人の麻疹患者が発見された事例。更に感染拡大の可能性のある事件として、立川市にある模型等玩具販売店で8月26日に開かれた200人規模のアニメイベントに麻疹患者が参加していた事例。関空の事件では、大阪市立大学医学部附属病院が9月14日、関西国際空港で集団感染した患者の受診後、医師等3人に感染あるいは感染疑い例が確認されたと発表し、二次感染も起こっていることが事実となりました。

国立感染症研究所感染症疫学センターによる9月7日までの集計によりますと、平成28年第1週(1/4～1/10)から第32週(8/8～8/14)までの32週間の国内麻疹患者の報告数が19人なのに対し、第33週(8/15～8/21)から第35週(8/29～9/4)までの僅か3週間の麻疹患者の報告数が63人に上っています。検出された遺伝子型は、H1(中国等で流行しているウイルス株)かD8(インドネシア等で流行しているウイルス株)でした。因みに日本の土着株とされている遺伝子型はD5で、検出されていません。

幸いにも、西多摩保健所管内においては、9月16日現在、麻疹患者発生の報告は受けていません。

日頃、麻疹患者が最初に受診する可能性のある診療を担っておられる実地医家の先生におかれましては、当分の間、上気道症状或いは発熱・発疹を呈する患者を診察される際には、麻疹を鑑別に入れて頂くようお願い致します。内科・小児科・救急外来以外にも、発疹が出現して初めて、皮膚科などを受診する患者もいるかもしれません。麻しん含有ワクチン(麻しんワクチン、麻しん風しん混合(MR)ワクチン、麻しんおたふくかぜ風しん混合(MMR)ワクチン)の接種歴を確認してください。修飾麻疹ではコプリック斑の出現が無いばかりか、発疹が手足だけに留まることもあるということを常に思い浮かべ、診察の際には必ず麻疹を鑑別に入れて下さい。

麻疹と診断された場合にはすぐ発生届を提出すると共に、早期診断ならびに感染拡大予防策を講じて下さいますようお願い申し上げます。

## ③ B型肝炎ワクチン定期接種について

平成28年10月1日から平成28年4月1日以降に生まれた0歳児を対象に、0歳児の間に計3回接種を行うB型肝炎ワクチンの定期接種が開始されます。ということで、今回は、国立感染症研究所IASR Vol. 37, No.8 (No. 438) August 2016からB型肝炎ワクチン定期接種についてお伝えします。

B型肝炎はB型肝炎ウイルス(hepatitis B virus: HBV)の感染によって引き起こされ、感染者が1歳未満の場合90%、1～4歳の場合は20～50%、それ以上の年齢では1%以下で持続感染状態(キャリア)に移行する。そのうち10～15%が慢性肝炎に移行し、さらにそれらの10～15%が肝硬変、

肝がんに進行するとされている。また HBV は遺伝子レベルでの分類が行われ、A 型～J 型まで 10 種類の遺伝子型 (ゲノタイプ) が同定され、この遺伝子型には地域特異性があること、慢性化率など臨床経過に違いがあることが知られている。

世界保健機関 (World Health Organization: WHO) では HBV に関連した肝硬変・肝がんの発生を減少させるため、世界規模での HBV 感染のコントロールを目指し、1991 年に B 型肝炎ワクチンのユニバーサルワクチネーションを全世界の国々が実施するよう勧告した。その結果、2014 年までに 184 の国で、乳幼児の予防接種が導入されることとなった。また接種率 80～90% 前後のユニバーサルワクチネーションを達成した国では、急性 B 型肝炎の減少を報告している。

#### 《日本におけるこれまでの経緯》

1. B 型肝炎母子感染防止事業: わが国では HBV キャリアの新たな発生の根絶を目指し、1985 年 6 月より B 型肝炎母子感染防止事業として、すべての妊婦の HBs 抗原検査、HBs 抗原陽性の妊婦に対する HBe 抗原検査を開始し、1986 年には HBV キャリアから生まれる児を対象として、公費による HBs 抗原検査、B 型肝炎ワクチンおよび抗 HBs 人免疫グロブリン投与を開始した。また、1995 年度に HBs 抗原陽性の妊婦に対する HBe 抗原検査、HBs 抗原陽性の妊婦から出生した児に対する HBs 抗原検査、B 型肝炎ワクチンおよび抗 HBs 人免疫グロブリン投与の処置は健康保険給付の対象となったことに伴い、助成対象が見直され、HBs 抗原検査に係る費用のみが助成対象となった。その後 1998 年度に、B 型肝炎母子感染防止事業は一般財源化された。この事業によって日本の乳幼児における HBV 感染率は大幅に下がり、母子感染防止事業の開始 10 年後となる 1995 年には、母子感染による HBV キャリア率は 0.26% から 0.024% にまで低下している。

2. 国内での水平感染: 母子感染防止事業により母子感染による HBV キャリアは減少してきた一方で、小児において、過去の感染を示す HBe 抗体陽性者は、HBs 抗原陽性者の数倍以上存在することなどから、B 型肝炎ウイルスに曝露する小児が一定程度いるものと考えられる。また、17～21 歳においても、同様の傾向がみられる一方で、HBs 抗原、HBe 抗体の陽性率に小児との大きな差異を認めないことから、幼少期に小児で水平感染が生じている可能性などが考えられている。

#### 《B 型肝炎ワクチンの定期接種化》

1. ワクチン・ギャップ: わが国では、予防接種の副反応の問題等を背景に予防接種行政に慎重な対応が求められてきた経緯から、WHO が推奨しているワクチンが予防接種法の対象となっておらず、他の先進諸国と比べて公的に接種するワクチンの数が少ない等の、いわゆる「ワクチン・ギャップ」の問題が生じている。B 型肝炎ウイルスワクチンは、2012 年 5 月の厚生科学審議会 (第 22 回感染症分科会予防接種部会) 等において、「広く接種することがのぞましい」とされたワクチン・ギャップにあてはまる 7 つのワクチンの一つであり、2013 年 3 月の予防接種法改正の参議院附帯決議において、「定期接種の対象とすることについて検討し、平成二十五年度末までに結論を得ること。」とされた。また、2014 年 3 月に告示された「予防接種に関する基本的な計画」においても、ワクチン・ギャップの解消が目標の一つとされた。

2. B 型肝炎ワクチンの効果: わが国で薬事法上の承認を受け使用可能な B 型肝炎ワクチンは、組換え沈降 B 型肝炎ワクチン (酵母由来) (一般財団法人化学及血清療法研究所の製造する「ビームゲン」と MSD 株式会社が製造する「ヘプタボックス-II」) である。通常 3 回のワクチン接種が行われ、その効果の持続については個人差があるものの、20 年以上続くと考えられている。「ビームゲン」は遺伝子型 C 由来、「ヘプタボックス-II」は遺伝子型 A 由来であるが、遺伝子型が異なるワクチンを使用した場合であっても、交差反応が認められていることから、いずれのワクチンを接種しても両方の

遺伝子型に有効性が期待される。

また、上述の通り、多くの国や地域で、すべての児を対象としたユニバーサルワクチネーションが、また日本を含むいくつかの国や地域でHBVキャリアから生まれた児を対象としたセレクトティブワクチネーションが実施されている。ユニバーサルワクチネーションはキャリア率の低下および急性肝炎の減少に大きな効果をあげており、わが国においても母子感染防止事業に加え、定期接種としてユニバーサルワクチネーションを導入することについて、厚生科学審議会において議論がなされてきた。

3.B型肝炎ワクチンの定期接種化：これら国内外の経緯から、2016年2月の厚生科学審議会（第8回予防接種・ワクチン分科会）において、B型肝炎ワクチンを2016年10月1日より定期の予防接種に位置付けることが了承され、2016年6月の「予防接種法施行令の一部を改正する政令及び予防接種法施行規則及び予防接種実施規則の一部を改正する省令の公布について」において、定期の予防接種の対象疾病として、B型肝炎をA類疾病に追加することとなった。接種年齢が若い程、良好な免疫応答が得られることや、小児期における水平感染を予防する目的等から、予防接種の対象者は1歳に至るまでの間にある者（ただし、平成28年4月1日以後に生まれた者に限る）とされた。標準的な接種期間としては、生後2月に至った時から生後9月に至るまでの期間とし、27日以上の間隔をおいて2回接種した後、第1回日の注射から139日以上の間隔をおいて1回接種することとなっている。

文責：東京都西多摩保健所保健対策課

#### ■ 〈全数報告 H28. 第35週～第39週〉

平成28年第35週（8.29-9.4）から第39週（9.26-10.2）の間に診断された感染症について、管内医療機関より以下の報告がありました。

（二類感染症）結核4人（肺結核4人。年齢は、20代2人、50代1人、80代1人。性別は、男性2人、女性2人。中国人2人）

（三類感染症）腸管出血性大腸菌感染症49人（患者23人、無症状病原体保有者26人。年齢は、20代1人、30代1人、40代1人、50代1人、60代1人、70代2人、80代23人、90代17人、100代2人。性別は、男性17人、女性32人。無症状病原体保有者の1人は、8月下旬に腸管出血性大腸菌感染症と診断された小学生の家族検便で、O157抗原陽性VT1・VT2陽性腸管出血性大腸菌が検出された。残りの48人は、8月末に羽村市の介護付き有料老人ホームで発生した集団食中毒調査において、O157抗原陽性VT1・VT2陽性腸管出血性大腸菌が検出された。）

（四類感染症）レジオネラ症2人（肺炎型2人。年齢は、60代1人、70代1人。性別は、男性1人、女性1人。1人は、ガーデニングによる感染と推定されている。1人は、感染経路不明。）

（五類感染症）劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人 患者50代男性 症状は、ショック・肝不全・腎不全・急性呼吸窮迫症候群・DIC・軟部組織炎・中枢神経症状。創傷からの感染と推定されている。

梅毒1人 無症状病原体保有者80代女性。推定感染経路は、不明。

## 〈管内の定点からの報告〉

(人)

	35 週	36 週	37 週	38 週	39 週
	8.29～9.4	9.5～9.11	9.12～9.18	9.19～9.25	9.26～10.2
RS ウイルス感染症	1	2	4	5	4
インフルエンザ					
咽頭結膜熱	3	1	1		1
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	1	2		3
感染性胃腸炎	25	18	19	14	17
水痘	3	5	1	2	4
手足口病	10	6	4	5	24
伝染性紅斑	2				
突発性発しん	4	1	3	2	1
百日咳					
ヘルパンギーナ	19	11	8	8	12
流行性耳下腺炎	4	2	3	3	
不明発疹症	1				
MCLS					
急性出血性結膜炎					
流行性角結膜炎					
合 計	75	47	45	39	66

## 基幹定点報告対象疾病

マイコプラズマ肺炎 2人 (1～4歳男性1人、10～14歳男性1人)

## 〈コメント〉

## ① RS ウイルスが大流行しています。

毎年8月以降から増加し始め年末に急に減少し始めるRSウイルス感染症について、東京都では第34週以降激増しており、西多摩でも第35週以降増加中です。東京都ではこの10年間において最大の流行となっていますので暫く警戒が必要です。

手足口病が西多摩では第39週に急増しています。東京都では今年较去年夏に見られたような流行はなく、なだらかに秋になっても微増しているだけです。今後増加していくことはないのではと予想しています。

夏かぜの代表的な疾患であるヘルパンギーナについて、7月21日東京都が警報を出す程の流行になったのですが、この5年間では2014年や2012年の流行には及ばない規模でした。東京都でも西多摩でも小さな再上昇は見られるものの、全体としては減少中です。このまま終息に向かうものと思われれます。

流行性耳下腺炎について、国立感染症研究所は6月27日までに、前回の流行(2010-11年)に次ぐ流行状態となっているとの見解を発表し、実際東京都では去年の冬から流行がまだ続いています。幸いにも西多摩では、東京都ほどの流行にはならず、今年になってから減少傾向にあります。

## ② 8月末に介護付き有料老人ホームで発生した集団食中毒について

羽村市にある介護付き有料老人ホームにおいて8月22日に夕食に出された『キュウリのシソ和え』を原因食品とする集団食中毒が発生しました。94人が原因食品を喫食し、うち入居者31人と職員1人を合わせて32人が発症し、発症者のうち22人と無症状の27人の計49人から腸管出血性大腸菌O157VT1VT2が検出されました。痛ましいことに10月17日現在、5人の入所者が腸管出血性大腸菌感染症を原因として亡くなりました。原因食となった8月22日の夕食の『キュウリのシソ和え』は同日、夕食として千葉県市川市の介護付き有料老人ホームにおいても提供されており、52人の患者と5人の死者が出たと発表されています。

さて腸管出血性大腸菌感染症に対する抗生剤の投与の是非についてですが、米国においては投与が推奨されておりません。ドイツでは臨床的な判断で使用すべきとなっています。日本では古いのですが、平成9年8月21日に旧厚生省から出された『一次、二次医療機関のための腸管出血性大腸菌(O157等)感染症治療の手引き(改訂版)』には、「O157感染症による下痢症は、細菌感染症であるので、適切な抗生剤を使用することが基本であり、厚生科学研究事業で行われた全国調査では、抗生剤を使用した群の中で早期投与された者ほどHUSの発症率が低かったとの結果が報告されている。一方、米国等では、これまでにST合剤等を使用した場合にHUSが悪化したという症例や抗生剤の使用の有無により臨床経過に有意な差異がなかったという研究結果が報告されている。欧米等では、抗生剤の使用に懐疑的な意見があり、世界保健機関(WHO)等においても検討課題として取り上げられている。また『抗生剤が菌を破壊することによって菌からのペロ毒素放出が増加した』という試験管内での実験結果から、『患者への抗生剤の使用は、腸管内で増殖した菌を破壊して症状を悪化させるのではないか』との理論的懸念も指摘されている。しかし、臨床結果との関係は明確でない。したがって現時点では、抗生剤の使用については上記の内容等を念頭に置いて、実際の臨床現場の状況を踏まえながら主治医が判断して対応すればよい。抗生剤の使用は経口投与を原則とし、小児には、ホスホマイシン(FOM)、ノルフロキサシン(NFLX)、カナマイシン(KM)を、成人には、ニューキノロン、ホスホマイシン」とあります。更に、「発症の早期を過ぎている場合、または激しい血便や腹痛の激しい時期に抗生剤を使用することが適切かについては判断の材料に乏しいが、抗生剤を使用しないか、使用する場合には静菌性抗生剤を使用し、合併症の発症に十分に注意することが妥当と考えられる。」と書かれています。これは <http://www1.mhlw.go.jp/houdou/0908/h0821-1.html> に載っています。

<http://journal.kansensho.or.jp/kansensho/0850060611.pdf> には、『腸管出血性大腸菌感染症の諸問題』というタイトルで清田浩先生(東京慈恵会医科大学附属青戸病院泌尿器科)、相楽裕子先生(東京都保健医療公社豊島病院感染症内科)、谷口清州先生(国立感染症研究所感染症情報センター)、大西健児先生(東京都立墨東病院感染症科)、松本哲哉先生(東京医科大学病院感染制御部・微生物学)の五人が腸管出血性大腸菌の治療について座談会をされた内容が載っています。まだ読まれたことがないのであれば是非一度、目を通して頂ければと思います。

座談会でのコンセンサスとして、「EHEC感染症発症後数日してHUS: hemolytic-uremic syndromeを発症することがあり、小児と高齢者に発症率は高く、高齢者で死亡例が多い。EHEC感染症発症3日以内ではホスホマイシン、キノロン系抗菌薬を使用できる。EHEC感染症発症4～7日以降で抗菌薬を投与するとHUS発症の危険性が高まる可能性を否定できないので抗菌薬は勧められない。就業制限を受ける保菌者にはホスホマイシンあるいはキノロン系抗菌薬による除菌を行う。」という結論になっており、米国と異なり発症後3日以内であればホスホマイシン、キノロン系抗菌薬の経口投与が使用可能となっています。発症後3日以内であれば、抗菌薬が菌の増殖を抑え、結果的にはペロ毒素の放出の減少に繋がっているのではと考え、私(筆者)は発症後3日以内という条件付きでの積極的推奨と受け取っています。個人的には、FOMの経口が良いと思っています。繰り返しになりますが、静注ではなく経口ですのでご注意ください。この座談会の文章の一つ気になるのが、「EHEC感染症には38℃以上の発熱はなく」と記載されているのですが、これまでの私の経験では、EHECの患者に38℃以上の発熱が出ることは稀ではないので注意が必要だと思います。

# 専門医に学ぶ 第121回

公立福生病院 呼吸器内科 山上 あゆむ

## 【症例】

患者：59歳 男性

主訴：発熱 血痰

既往歴：59歳時 急性心筋梗塞 高血圧 糖尿病

喫煙歴：40本/日×40年

飲酒歴：焼酎2合/日×40年

職業歴：内装業

現病歴：

受診4日前より39°C台の発熱・血痰が出現し、増悪傾向のため当科を受診した。胸部レントゲンにて左肺炎(図1)を認め、入院加療を勧めたが拒否されたため、LVFX500mgを処方し帰宅とした。翌日、解熱傾向みられず再受診、緊急入院となった。

入院時身体所見：意識清明、体温39.6°C、血圧102/79mmHg、脈拍134回/分、呼吸数33回/分、経皮的酸素飽和度92%(room air)、左肺野で不連続音を聴取 其他神経学的所見を含め特記すべき所見は認めなかった。

## 入院時検査所見

(尿検査) 蛋白(2+)、糖(4+)、潜血(2+)、ケトン体(-)

(血算) WBC 17000/ul (Ba 0.1%, Eo 0.1%,  
Neut 96.1%, Mo 1.4%), RBC  $528 \times 10^4/\mu\text{l}$ ,  
Hb 17.0 g/dl, Plt  $20.4 \times 10^4/\mu\text{l}$

(生化学)

CRP 42.4, TP 6.0g/dl, ALB 3.0 g/dl,  
T-Bil 0.56 mg/dl, AST 26 U/l, ALT 20 U/l,  
LDH 360 U/l, CK121 U/l, Cre 1.21 mg/dl,  
BUN 27.9 mg/dl, Na 123.5mmol/l,  
K 4.6 mmol/l, Cl 99.1 mmol/l, BS 262mg/dl,  
HbA1c 9.4%, BNP 202pg/ml

図1 初診時胸部レントゲン

図2-1.2 第2病日胸部レントゲン

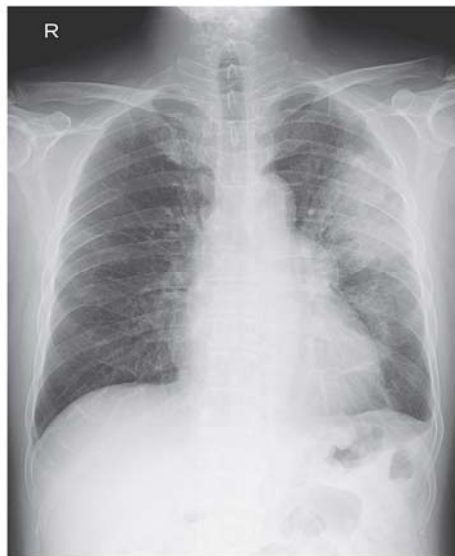


図1 初診時胸部レントゲン



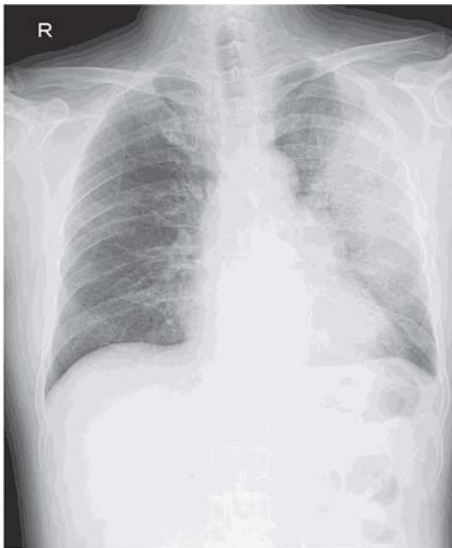


図 2-1 入院時胸部レントゲン

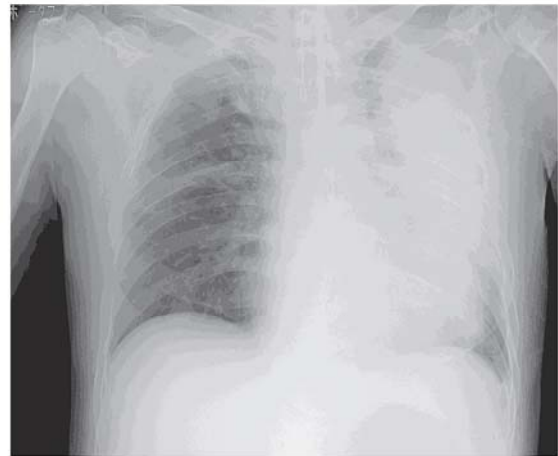


図 2-2 挿管後胸部レントゲン

### 問題 1

問診で聞いておくべきことは何か？

- 1) 誤嚥の有無
- 2) 鳥の飼育
- 3) 温泉での入浴
- 4) 血尿の有無
- 5) 内服薬の確認

### 問題 2

治療として正しいものは？

- 1) ペニシリン系抗菌剤
- 2) セフェム系抗菌剤
- 3) マクロライド系抗生物質
- 4) ニューキノロン系抗菌剤
- 5) カルバペネム系抗菌剤

### 【解答】

診断：レジオネラ肺炎

問題 1 すべて

問題 2 3) 4)

一般診療において肺炎を診た場合に細菌性肺炎、異型肺炎（マイコプラズマ肺炎、オウム病、クラミジア肺炎など）、誤嚥性肺炎、間質性肺炎（薬剤性肺障害を含む）、肺胞出血などが鑑別に

あげられる。尿中抗原や迅速抗原検査等、速やかに診断可能なキットも汎用されているが、肺炎の診療において問診は、診断を絞りこむための重要な情報源となる。本症例では初診時に胸部レントゲン写真（図1）にて左肺炎を認め、発症前に日帰り入浴施設での利用があり、問診の段階でレジオネラ肺炎が疑われた。尿中レジオネラ抗原陽性、喀痰より *Legionella pneumophila*（血清型1）を検出しレジオネラ肺炎と診断した。

入院時の胸部X線写真（図2-1）では、浸潤影は左肺野全体に拡がり、急速な呼吸不全の進行（図2-2）を認めたため、人工呼吸管理を行い、レボフロキサシン：LVFX 500mg リファンピシン：RFP 450mgに加えステロイドパルス療法（mPSL 1000mg/日 3日間）を併用した。完全解熱には約10日を要したが、画像所見と呼吸状態、血液検査所見は速やかに改善を認め、第12病日には人工呼吸管理から離脱した。

レジオネラ肺炎はレジオネラ属菌で汚染されたエアロゾルを吸入することにより発症する疾患で、年間約900例の発症があり、市中肺炎の約3%を占めるとの報告がある。潜伏期間は2-10日で、発熱、咳嗽、喀痰が出現し、下痢等の消化器症状や昏睡、幻覚などの中樞神経症状がみられることがある。特に高齢者、糖尿病や慢性呼吸器疾患などの基礎疾患がある場合は重症化しやすいため注意が必要である。

本疾患の迅速診断として尿中抗原が汎用され、*Legionella pneumophila* 血清型1における感度は60-90%、特異度95%とされているが、血清型1以外の *Legionella pneumophila* では感度5%程度に低下する。本症例のように *Legionella pneumophila* 血清型1による感染症の多くは、尿中抗原検査により速やかな診断と治療開始が可能である。しかし尿中抗原陰性であっても入浴施設の利用歴や経過や検査所見よりレジオネラ肺炎が否定できない場合には、血清型1以外のレジオネラ肺炎も鑑別診断として考慮すべきである。

レジオネラ肺炎の治療はペニシリンやセフェム系の抗菌剤は効果がなく、マクロライド系、ニューキノロン系抗菌剤やリファンピシンなどが使用される。一般に迅速診断がなされ適切な治療がなされていても約10%は救命困難であり、適切に治療がなされない場合は7日以内に死亡することが多いとも報告されている。本症例では急速に呼吸状態が悪化したため、LVFX+RFPにステロイドパルス療法を併用し改善をみた。

レジオネラ肺炎は4類感染症に定められており診断した場合は直ちに保健所に届ける必要がある。近年では温泉施設や循環式浴槽、医療機関における集団感染事例の報告が見られるが、約半数以上が感染源の特定に至っていない。

本症例を含む2患者の喀痰と入浴施設の浴槽拭い液より *Legionella pneumophila*（血清型1）が同定、同一遺伝子パターンを示し原因施設の特定に至った。レジオネラ症は早期診断治療を要するだけでなく、感染拡大を防ぐための疫学調査や感染源特定のため保健所との連携が必要である。

## 広報だより



### 旧 ゴジラ

瑞穂町 栗原医院 栗原 教光

先日ひょんなことから、シン ゴジラを見る事になった。  
年甲斐もなく最初は、恥ずかしかったが終わってみるとハリウッド版より面白いかもと思った。  
シン ゴジラを見て今から数十年前の高校生時代を思い出した。  
学校は国立にある中高一貫校の男子校である、中2から悪たればかりのラグビー部に入った。  
立川駅が近くになると下りの中央線の車窓から今でも見える大衆酒場 玉河でよく騒いでいた。  
ある時、親友の島田が急に立ち上がり、白目を光らせ、ゴジラの火炎放射の如くブワーとぶちまいた。

皆避ける暇もなく火炎放射を浴び、しばらく動けなくなった。  
店のおやじが飛んできたが、誰かが支払いをし、「すみませんでしたー」と店を逃げ出した。  
立川駅に向かいフラフラ皆で歩いていると、学校の体育の先生が駆け寄り、島田に大丈夫かと肩をかした。その後、何も怒らず立川駅で「お前ら気をつけて帰れよ」と言い立ち去った大きな後ろ姿を今でも覚えている。

次の日から、先生の呼び名が体育の増田から増田先生に変わった、男子校とはこんなものである。

それ以来、玉河には怖くて行ってないが、のれんを見るたび ゴジラ島田を思い出す。今はどこで眠っているのか？

### 連載企画



### 十勝再訪

あきる野市 近藤医院 近藤 之暢

10月上旬、約3年ぶりに北海道十勝地方（十勝支庁）を訪れることができました。  
十勝は世界ラリー選手権（WRC）が初めて日本で開催された2004年から毎年のように訪れていました。近年は少なくとも年に一度は何らかの理由をつけて北海道へは行ってはいたものの仕事などスケジュールの関係で道東への旅行ができていませんでした。

今回も急な私用や珍しく台風が北海道へ上陸するなどして2度延期されていましたが、何とか一泊二日で行くことができました。

第一目的は『十勝千年の森』でのセグウェイ体験でした。  
もちろん天候によっては予定通りの乗車（？）体験はできなくなってしまいますが、とにかく北

の大地を訪れたいという思いだけでも達成したいと計画を立てました。

早朝羽田発 7 時 40 分の十勝帯広便に搭乗し 10 時前には空港近くのレンタカー営業所を出発、往路早めの昼食をとり清水町の目的地に向かいました。

途中至る処で川（十勝川・札内川・芽室川・それらの支流など）の増水氾濫による大量の流木、流域の荒廃がみられ国道を含めた道の寸断もみられました。

清水町の目的地に近づくにつれ通行止めの箇所も多くなっていましたが迂回路を通り何とかたどり着きました。

『十勝千年の森』は環境貢献活動としての『カーボン・オフセット（炭素の相殺）』を起源として十勝毎日新聞社を始め多くの関連会社が地域・地球環境を考え千年後の人類に残す大きな遺産として『森を残す』活動をしているそうです。

千年先 1000 ヘクタールの森をつくり遺産として残すということを考えているそうです。今でも約 400 ヘクタールの森をつくりその敷地内で様々な活動をしています。我々観光客としては敷地内散策・乗馬・ショッピング・食事・セグウェイ・チーズ作り・アート鑑賞などの体験ができます。

今回はセグウェイ体験を目的に訪れました。実は 5 年半前にも同地でセグウェイを体験しています。このときの体験が今まで経験のない感覚であったことが忘れられずに再訪したのです。前回から時間がたっており無事乗りこなせるか心配していましたが、自転車と同じで一度覚えてしまえば何となくからだ覚えていよう数分で前回と同じように乗れるようになりました。広い草原（小さな丘がランダムに配置された芝原）で自由に乗車体験後敷地内の『千年の丘』へ登りガイドさんが用意してくれたお茶を飲みながら周辺の山々や自然を楽しみました。ガイドさんは清水町在住の女性でしたが、8～9 月にかけての台風では大変な思いをしたそうです。残念なこと近くに家が流出したそうですが 100 年くらい前の川の氾濫でも同じところがあった家が流出し、危険な場所は元々危険であると感じたそうです。大地を流れる川は護岸をして無理に流れを変えると大変なことになるのかもしれませんが。今回セグウェイ 2 回目の体験だったので森林コース体験を計画していたのですが道が流出して寸断されてしまったため前回と同じコースになってしまいました。近いうちに再度訪れ森林コースへ挑戦したいと思っています。また乗馬なども経験できるのでこちらも挑戦してみたいと思っています（森の中に放牧してある馬を自分で捕まえてから乗馬するそうです）。

体験終了後は十勝ばんえい競馬を楽しみました。取支は今ひとつでした。ばんえい競馬はダート直線コースのそり牽引でゴールまで時間がかかるためスタートからゴールまで歩いてついて行けるのが特徴です。迫力ある競馬がコース全域で楽しめます。

十勝川温泉に宿を取り秋の味覚を堪能、翌日は帯廣神社（中島みゆきさんの祖父が作られたそうです）にお参りし、マイセンバターサンドで有名な六花亭の本店で買いものをして十勝帯広空港から羽田へ逆戻りと慌ただしい旅行でした。

（セグウェイは朝霧高原など関東地域でも数カ所乗車体験ができるようです。是非とも体験してみてください）

## ◇学術講演会予定

28.10.21

開催日	開始～終了 時間 開催時間	会場	単 位 数	カリキュラム コード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
11.16 (水)	19:30 ～ 20:40	公立福生 病院多目 的ホール	1	39	学術講演会 「これからのアレルギー性鼻炎治療 ～新規薬剤を中心に～」	日本医科大学 多摩永山病院 耳鼻咽喉科 部長・病院教授 後藤 稜 先生
11.16 (水)	19:20 ～ 21:15	青梅市立 総合病院 南棟 3階 講堂	1.5	10(0.5) 46(0.5) 79(0.5)	第 22 回青梅呼吸器懇話会 症例検討：「胸部 X線写真読影・解説 ～当日持ち寄った画像・症例を検討 します～」 特別講演：「市中肺炎治療のポイント」	青梅市立総合病院 呼吸器内科 川口 陽史 先生
11.17 (木)	19:45 ～ 21:20	西多摩 医師会館			第 9 回青梅 C K D 勉強会 情報提供 症例提示：「膜性腎症を呈した悪性中 皮腫の 1 例」 「尿酸はリスクなのか？～C K D と の関連～」	青梅市立総合病院 腎臓内科 河本 亮介 先生  (医社) 敬天会 鶴田板橋クリ ニック 鶴田 悠木 先生
11.28 (月)	19:30 ～ 20:30	公立阿伎留 医療セン ター講堂			公立阿伎留医療センター医局講演会 「ステロイド性大腸骨頭壊死症の一例」	公立阿伎留医療センター 整形外科 鈴木 貴士 先生
12. 1 (木)	19:30 ～ 20:45	西多摩 医師会館			学術講演会 「心血管イベント抑制を意識した糖尿 病治療戦略」(案)	慶應義塾大学医学部 循環器内科 教授 佐野 元昭 先生
12. 7 (水)	19:30 ～ 21:00	羽村市生涯 学習セン ターゆとろぎ レゾナンス ホール	1	52	学術講演会 「逆流性食道炎治療と抗血栓療法時の 上部消化管障害について」(仮)	東京医科大学病院 内視鏡センター 部長 / 医療保険室長 / 教授 河合 隆 先生
12.16 (金)		青梅市立 総合病院 南棟 3階 講堂	0.5  1	73(0.5)  75	学術講演会 1：「家族性高コレステロール症の 病態と最新治療 －脂質代謝における PCSK9 の役割 を中心に－」 2：「冠動脈疾患の脂質管理と抗 PCSK9 抗体への期待 －冠動脈イメージングからの提案－」	杏林大学医学部付属病院 高齢診療科 准教授 大荷 満生先生  日本大学医学部 内科学系 循環器内科学分野 准教授 高山 忠輝 先生

## 医師会館休館のお知らせ

年末・年始 事務局は下記の通り休館いたします。

記

**12月29日(木)～1月4日(水)まで**

(通常業務は28日(水)正午までとさせていただきます。なお1月5日(木)より平常通りとなります。)

## 西多摩医師会 写真・絵画展

恒例の西多摩医師会 写真展が9月1日～7日まで、羽村市生涯学習センターゆとろぎ展示室で開催されました。

写真が趣味の方、興味のある方は是非医師会事務局か部員（本号出品者）までご連絡ください。

部長 真鍋 勉 (TEL 042-554-6511)



Flowers in the garden 田村 啓彦

南米原産のカトレア“ジュロデーレ”です。タイミングよくきれいに咲きました。



カトレア 森本 晋



夏の思い出、たち 古川 朋靖

笠雲は雨の兆し  
快晴なるも



笠雲

松原 貞一

花水木は木々として観る事が多いと思  
いますが、その木々の彩りはこのような一つ  
一つの可憐な花が作り出しているのです。



花水木

真鍋 勉



カミキリムシ 稲垣 壮太郎

花巻温泉の敷地内にある穏やかな滝。  
釜壺形が名前の由来だそうです。荒々しい滝  
は見慣れているので爽やかな感じに打たれます。



釜淵の滝 (カマブチの滝)

坂本 保己

# 理事会報告

★ Information

9月定例理事会

平成28年9月13日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・石田・江本・奥村・川上・栗原・佐藤・進藤・土田・馬場・古川・宮城・横田・中野)

## 【1】報告事項

### (1) 各部報告

- ・総務部: ○資料により 12/10 に開催予定の「看護職の就職相談会」の内容等について
- ・公衆衛生部: ○7/30 に開催された「産業医研修会」の状況について
- ・地域医療部: ○資料により 8/4 に開催された生活習慣病栄養指導外来「意見交換会」の内容等について
  - 平成 28 年度高齢者インフルエンザ予防接種事業について (要望) 協議事項に変更し協議
- ・学校医部: ○第 41 回学校医大会被表彰者の推薦依頼に対象者 3 名を推薦した件について
  - 9/2 に開催した学校医部会の内容等について
- ・学術部: ○8/25 に開催した学術部会の内容等 (28 年度の市民健康講座等の今後の予定等) について
  - 9/5 に開催された多摩医学会役員会の内容等について

### (2) 地区会報告 (各地区理事):

- 青梅市 7/29 多職種ネットワークに係る委員会開催
- 福生市 9/28 福生市医師会勉強会を開催予定
- 羽村市 9/10 羽村市三師会 30 周年記念講演会・式典・祝賀会を開催
- あきる野市
- 瑞穂町
- 日の出町 資料により日の出町集団予防接種でのワクチン種類の誤接種と今後の対応等について

### (3) その他報告

- 平成 28 年度の医師会関連委託事業の委託単価等について (B 型肝炎に係る定期予防接種の単価の設定) 標記都医からの通知・情報について資料により紹介・報告
- 救急の日ポスター及び CAB+D カードの送付について
  - 標記都医からの通知について資料により紹介・報告、市民講座等での配布予定
- 東京都災害拠点連携病院の指定について
  - 標記都医からの通知資料により目白第二病院が新規指定された件を紹介・報告
- 「地区医師会 IT 化の実態と意識に関するアンケート調査」について
  - 資料により標記に係る都医からの協力依頼につき協力回答した内容等を報告



**【2】報告承認事項****(1) 入退会会員、会員異動について**

資料により、準会員3名の入会申請が報告され承認された。また、正会員1名・準会員8名の退会が紹介された

— 承認 —

**(2) 西多摩地区議長会研修会の開催に伴う講師について**

標記依頼に係る承諾対応について資料により報告

— 承認 —

**(3) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会（9/24・新潟）**

9/24日に開催される標記学会における発表予定の内容等が資料により紹介された

— 承認 —

**(4) 西多摩栄養管理研究会「食のバリアフリーについて考える」**

10/8に開催される標記研究会における発表予定の内容等が資料により紹介された

— 承認 —

**【3】協議事項****(1) 医師会報の会外配布先について**

現在の配布先に加え新たに配布先等を検討し、(案)を作成し協議することが提案され可決承認された

— 可決承認 — (継続)

**(2) 西多摩医師会 HP 感染症情報アクセスリンク案について**

資料により標記(案)が紹介され、ホームページへの掲載について広報部にての検討が提案され可決承認された

— 可決承認 — (継続)

**(3) 職務分掌表について**

現在決まっている部員・委員等の表が示され、内容等の確認と未定部分の人選等が求められた

(継続)

**(4) 平成28年度高齢者インフルエンザ予防接種事業について(要望)**

資料により標記の要望事項について説明され、今後の交渉にあたっての要件について検討、28年度の接種単価については、従来通り三者協の決定額プラス30円での交渉が提案され可決承認された

— 可決承認 — (継続)

**【4】その他**

特になし

**9月定例理事会**

平成28年9月27日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・江本・奥村・川上・栗原・佐藤・進藤・土田・馬場・古川・宮城・横田・中野)

**【1】報告事項****(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告**

9/16日に開催された標記協議会の内容・伝達事項等について、資料により説明報告された

## (2) 各部報告

- ・総務部：○平成28年度多摩地区医師会懇話会の開催に係る第2報（資料）について紹介、各役員の出席可否確認
- ・総務部（保険担当）：○10/25に「市町村国保主務担当者との懇談会」の開催を予定、日時等について
  - 11/18に「保険講習会」の開催を予定、日時等について
- ・地域医療部：○9/26に開催された第2回「西多摩地域脳卒中医療連携検討会」の内容等について

## (3) 地区会報告（各地区理事）：

- 青梅市
- 福生市 9/28 予防接種に係る勉強会を開催予定
- 羽村市
- あきる野市
- 瑞穂町
- 日の出町

## (4) その他報告 特になし

## 【2】報告承認事項

### (1) 入退会会員、会員異動について

資料により準会員2名の入会申請が紹介・報告され可決承認された。また、正会員1名・準会員4名の退会が報告された。

— 承認 —

## 【3】協議事項

### (1) 「東京都地域医療構想調整会議」に係る委員の推薦について（依頼）

— 可決承認 —

資料により東京都からの標記依頼事項について紹介・説明され、推薦する委員については、地域医療構想の策定にあたって開催された「地域ごとの意見聴取の場」に参加した各代表の先生のうち、田口弘之先生（多摩リハビリテーション病院）を石田信彦先生に、西成田進先生（公立阿伎留医療センター）を荒川泰行先生に変更、その他の先生は変更なく推薦することが提案され、可決承認された

### (2) 「インフルエンザ個別予防接種業務委託契約書」の締結について

— 可決承認 —

前回協議において示された標記予防接種事業に係る行政との交渉要件が満たされたことが説明報告され、資料により契約書（案）説明の後、標記契約書の締結について可決承認された

## 【4】その他

特になし

**10月定例理事会**

平成28年10月11日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・石田・江本・奥村・栗原・佐藤・土田・馬場・古川・宮城・横田・中野)

**【1】 報告事項****(1) 各部報告**

・総務部（保険担当）：○ 10/25 「市町村国保主務担当者との懇談会」の日時確認と行政からの議題等について

・地域医療部：○ 10/1 に開催された「在宅医療講座」の内容等について

**(2) 地区会報告（各地区理事）：**

青梅市

福生市 9/28 予防接種に係る講習会」開催

10/18 例会開催予定

羽村市 10/9 日の市民運動会に三師会として参加

あきる野市

瑞穂町

日の出町

**(3) その他報告 特になし****【2】 報告承認事項****(1) 入退会会員、会員異動について**

資料により準会員3名の入会申請が紹介され入会が可決承認された、また、準会員3名の退会届・異動届1件紹介・報告された

— 承認 —

**【3】 協議事項****(1) 東京都国民健康保険診療報酬審査委員会委員の推薦について（依頼）**

資料により標記の依頼事項が紹介され、現委員の安部学先生の内諾が得られていることから引き続き安部先生を推薦することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

**【4】 その他**

## ○災害医療対策委員会より

西多摩保健医療圏地域災害医療連携会議（10/20）及び災害時図上訓練説明会（10/27）の日程等について紹介・報告された

## 会員通知

- 会報9-10月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 産業医研修会（12/17 東京都医師会）
- ” （11/5 荏原医師会）
- ” （10/22 日本橋医師会）
- ” （12/17 東京医科大学医師会）
- 学術講演会（9/1・9/26・10/5・10/12・10/14）
- 福生市医師会学術講演会（9/28）
- 公立阿伎留医療センター医局講演会（10/31）
- 青梅市立総合病院CPCご案内（10/17）
- 第2回在宅医療講座案内
- 会員名簿作成についてのお願い
- ABCDカード
- オンライン請求システムに必要な証明書の更新及びレセプト情報等を保護する通信の暗号化方式の変更について
- 検案業務サポート研修会
- 医療安全情報No.117 他施設からの食種情報の確認不足
- 西多摩医師会感染症情報アクセスリンク先ご案内
- 平成29年用「駐車禁止等除外標章（緊急往診車用）新規申請について
- 訪問看護フェスティバル（1/14 東京都看護協会）
- 第2回医療従事者肝疾患研修会（10/10）
- 健康食品に関する安全性情報共有事業について（協力依頼）
- サプリメント「安全な健康食品の使用にご理解御協力を」
- 「健康食品」情報共通シート綴り
- 医療安全情報 No.116 与薬時の患者取り違え
- 第2回医療廃棄物排出事業者向けセミナー（11/18）
- 平成28年度日本医師会医療安全推進者養成講座（10/16）
- 東京都医師会雑誌平成29年1月号（新年随想集）について
- 「レセプト電子請求」の内容を利用した不審メールについて（注意喚起）
- 医療機関等における患者等の安全確保について
- 誤飲性肺炎を防ぐための口腔ケア—口腔ケアは生きる意欲を引き出す—（10/20 西多摩歯科医師会）
- 平成28年度認知症サポート医養成研修
- 平成28年度第1回第2回がん検診受託医療機関講習会（12/1・10/27）
- 東京都医師会糖尿病予防推進医講習会[基礎編]（11/13）
- 平成28年度外国人未払医療費補てん事業のご案内
- 平成28年度東京都立小児総合医療センター小児在宅医療サポートチーム勉強会
- 2016年度の季節性のインフルエンザワクチンについて
- ダニ媒介感染に係る注意喚起について
- B型肝炎予防接種予診票について
- 日本医師会生涯教育講座
- デング熱等の蚊媒介感染症に関する注意喚起について
- 10月のレセプト提出について
- 平成28年度「看護職の就職相談会」開催について（12/10）
- 管内市町村国保担当主務者との懇談会開催について（10/25）
- 西多摩三師会第1回セミナー（10/21）摂食嚥下機能障害支援
- ジカウイルス感染症患者（輸入症例）の発生について
- 麻疹の広域的発生に伴う医療機関等での対応について
- 支援を要する妊婦等に関する情報提供
- 平成27年度12月1日からストレスチェックが義務化になりました
- 第92回多摩医学会講演会 抄録
- 市民健康講座ポスター（10/29）
- 市民公開講座ポスター（糖尿病医療連携）（10/22）

- 児童虐待対応研修 (12/8)
- 出産後早期のB型肝炎ワクチン接種の取扱  
について
- 大人の発達障害について (11/24)
- 平成28年度東京都立学校産業医研修会  
(11/19)
- 平成28年度第3回学校保健(学校医)研  
修会 (11/5)
- 平成28年度診療報酬改定について経過措  
置を設けた施設基準の取り扱い
- 発達障害についての医療従事者向け講習の  
ご案内
- 「東京都胃がん検診の精度管理のための技  
術的指針」等の送付
- 助成金の申請等の勧誘について
- 平成28年度厚生労働省委託事業「医療勤  
務環境改善マネジメントシステム普及促進  
セミナー」
- 麻しんの広域的発生に伴う乾燥弱毒生麻し  
ん風しん混合ワクチンの供給に関する対応  
について
- ジカウイルス感染症に関する注意喚起につ  
いて
- WAM NET
- 西多摩医師会 ゴルフコンペ (11/27)
- 脳卒中医療連携症例検討会 (11/1)
- 日医産業医制度における研修会の開催予定

## 医 師 会 の 動 き

平成28年10月21日現在

医療機関数	195	病院	30
		医院・診療所	165
会 員 数	557	正会員	205
		準会員	352

### 会 議

9月2日	学校医部会
8日	第2回糖尿病医療連携検討会
13日	定例理事会
26日	第2回脳卒中医療連携検討会
27日	定例理事会
10月6日	在宅難病調整委員会 糖尿病分科会
11日	定例理事会
13日	在宅難病訪問診療(青梅)
21日	広報部会(会報編集)
25日	管内市町村国保主務担当者との懇 談会
25日	定例理事会

### 講演会・その他

9月1日	学術講演会 【特別講演Ⅰ】 演題:「重症PHをどう治療する か?東大病院の取り組み」
------	---

講師: 東京大学医学部付属病院  
循環器内科  
助教 牧 尚孝 先生

#### 【特別講演Ⅱ】

演題:「膠原病に伴うPAHの早期  
診断と治療」

講師: 東京女子医科大学  
リウマチ科

臨床教授 川口 鎮司 先生

8日	保険整備会
10日	糖尿病1日教室 糖尿病患者さんと糖尿病予備群の 方のための

#### 【誰にでもわかる糖尿病の話】

高村内科クリニック 院長  
高村 宏 先生

#### 【食事療法の基本~できることから実践を】

管理栄養士(NPO法人西東京  
臨床糖尿病研究会)  
野田 章子 先生

#### 【運動療法...楽しく安全で高齢 者も】

トレーナー(高村内科クリニック)  
小池 日登美 先生

15日	法律相談
-----	------

- 29日 糖尿病教室  
部長 布施孝久先生
- 10月1日 在宅医療講座  
・在宅での口腔ケア  
森谷歯科医院 森谷 尊文 先生  
・死体検案について  
野本医院 野本 正嗣 先生  
・経管栄養についての管理について  
酒井医院 酒井 淳 先生  
・在宅での事故・トラブル  
進藤医院 進藤 幸雄 先生  
・在宅医療にかかわる法律知識の  
実践  
福生クリニック 玉木 一弘 先生  
・パーキンソン病の見つけ方と治  
療の実践  
東海大八王子病院 神経内科教  
授 野川 茂 先生
- 5日 学術講演会  
【一般講演】  
演題：「アブレーション周術期の  
抗凝固薬の使用状況」  
講師：青梅市立総合病院 循環器  
内科 医長 大坂 友希 先生  
演題：「肺血栓塞栓症の内科的治  
療戦略」  
講師：東京大学大学院医学系研究  
科 重症心不全治療開発講座  
特任准教授 波多野 将 先生
- 6日 保険整備委員会
- 12日 学術講演会  
演題：「心腎不全における新しい  
浮腫管理」  
講師：日野市立病院  
副院長腎 臓内科・透析室長  
村上 円人 先生
- 14日 西多摩医師会こころのバリアフ  
リー活動関連学術講演会  
演題：「認知症患者20人に1人  
特発性正常圧水頭症の地域連携」  
～転倒を繰り返す、ご老人に注  
意!～  
演者：公立福生病院 脳神経外科
- 20日 法律相談
- 22日 市民公開講座  
『糖尿病と上手くつきあうために』  
～糖尿病専門医からのメッセージ～  
○第1部体験談「糖尿病と上手く  
つきあうために」  
糖尿病患者会「梅の会」須田一  
男氏  
高村内科クリニック「もろこし  
会」笹本清美氏  
○第2部特別講演「糖尿病と上手  
くつきあうために」  
～糖尿病専門医からのメッセー  
ジ～  
青梅市立総合病院 内分泌糖尿  
病内科 医長 西澤 麻依子 先生
- 27日 糖尿病教室
- 29日 市民健康講座  
【第1部】 東京都相互理解のため  
の対話促進支援事業  
「在宅での療養生活を送るには」  
講師：西多摩医師会会長 玉木 一  
弘 先生  
【第2部】 テーマ 日常生活の中  
の落とし穴  
講演Ⅰ：「入浴の仕方、心臓に負  
担をかけすぎない運動の仕方につ  
いて」  
講師：公立阿伎留医療センター  
循環器内科 松永 洋一 先生  
講演Ⅱ：「始めましょう!健康体操」  
～元気で長生きする運動  
の心がけ～  
講師：あいざわ整形クリニック  
會澤 義之 先生
- 役員出張
- 9月3日 三鷹市医師会50周年記念式典祝  
賀会
- 5日 多摩医学会役員会
- 14日 生活保護法指定医療機関指導立会

16日 地区医師会長連絡協議会  
 16日 多摩ブロック医師会正副会長協議会  
 10月15日 東京都医師会学校保健担当理事連絡会  
 16日 東京都医師会館落成記念祝賀会  
 20日 青梅市立総合病院 地域災害医療連携会議  
 21日 地区医師会長連絡協議会  
 21日 西多摩三師会 第一回セミナー  
 27日 青梅市立総合病院 災害時図上訓練説明会

## 【退会会員】(正会員)

氏名 中内 忍  
 勤務先 (医社)良心会 青梅成木台病院

## 【廃業】

氏名 道又 正達  
 勤務先 道又医院

## 【入会会員】(準会員)

氏名 脇坂 晟  
 勤務先 (医社)向日葵清心会 青梅今井病院  
 出身校大学 北海道大学 昭和40年3月卒

氏名 鈴木 さやか  
 勤務先 青梅市立総合病院  
 出身校大学 愛媛大学 平成23年3月卒

氏名 飯塚 美紗都  
 勤務先 公立阿伎留医療センター  
 出身校大学 日本大学 平成24年3月卒

氏名 土井 里実  
 勤務先 公立阿伎留医療センター  
 出身校大学 東京女子医科大学  
 平成24年3月卒

氏名 堀合 真市  
 勤務先 (医社)悦伝会 目白第二病院  
 出身校大学 杏林大学 平成13年3月卒

氏名 中條 綾  
 勤務先 しみず小児科・内科クリニック  
 出身校大学 杏林大学 平成10年3月卒

氏名 小野山 温那  
 勤務先 青梅市立総合病院  
 出身校大学 徳島大学 平成19年3月卒

氏名 小山 雄太郎  
 勤務先 青梅市立総合病院  
 出身校大学 北海道大学 平成25年3月卒

氏名 山際 健  
 勤務先 青梅市立総合病院  
 出身校大学 東京医科歯科大学  
 平成25年3月卒

## 【退会会員】(準会員)

氏名 山梨 順二  
 勤務先 (医社)良心会 青梅成木台病院

氏名 長島 沙樹  
 勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 松尾 定憲  
 勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 吉田 雅彦  
 勤務先 (医社)和風会  
 多摩リハビリテーション病院

氏名 金井 弘次  
 勤務先 公立福生病院

氏名 青木 文夫  
 勤務先 青梅市立総合病院

氏名 佐々木 賢一  
 勤務先 青梅市立総合病院

氏名 野口 佑真  
 勤務先 青梅市立総合病院

(24)

氏名 興石 剛  
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院

【氏名変更】  
青梅市立総合病院  
(新) 田中 真優子  
(旧) 佐藤 真優子

氏名 林 篤善  
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院

氏名 岡部 百合子  
勤務先 青梅市立総合病院

### 表紙のことば



「羽村の秋」

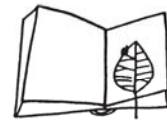
愛犬の散歩中に出会った光景です。まだまだ羽村ものんびりしたところです。

古川朋靖

氏名 岸根 有美  
勤務先 青梅市立総合病院

氏名 高橋 知子  
勤務先 青梅市立総合病院

氏名 坂本 加樹子 (旧姓 塚原)  
勤務先 青梅市立総合病院



氏名 林 良樹  
勤務先 青梅市立総合病院

## お知らせ

### 事務局より お知らせ

#### 保険請求書類提出

平成28年12月 (11月診療分) **12月8日 (木)** 正午迄  
平成29年 1月 (12月診療分) **1月6日 (金)** 正午迄

#### 法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を  
毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。  
お気軽にご相談ください。

◎相談日 **11月17日 (木)**  
**12月15日 (木)**  
**1月19日 (木)**

◎場 所 西多摩医師会館

◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・  
刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相談料 無料 (但し相談を超える場合は別途)

◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。

(注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。



## あ と が き



9月の末にふと金木犀の香りがしたと思ったらもう秋である。今年も例年のように厳しい夏が予想されたが、異常気象（特に台風の多発）の影に隠れて、例年より夜間も眠れたような気がした。

先日、88歳の外来通院中の患者さんがお亡くなりになった。最後の来院1週間後であった。御家族からの連絡で Autopsy imaging (Ai: 死亡時画像診断) により、胸部大動脈解離による心タンポナーデが死因とのことであった。最近、食欲不振、気力減退

が顕著となり、もっと早く病院へ入院させればと思ったそうであるが、担当医から死因を聞き、防ぎようがない死であると説明を受け納得できたそうである。それから間もなくの所属学会の総会で Ai のセミナーがあった。すべてが診断可能な訳ではないが、今後、Ai がルーチン化されてくれば、『解剖はいやだが Ai なら』という御家族も多くなり、御家族の精神的負担の軽減や、医師・看護師の御家族への正確な説明が可能になる。今後、診断医の育成や費用の問題などもあるだろうが、患者さんの御家族および医療サイド両者にとって、有益なものであると感じた。

双葉クリニック 松崎 潤

一般社団法人 西多摩医師会

平成28年11月1日発行

会長 玉木一弘 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会 古川 朋靖

栗原 教光 土田 大介 鹿児島武志 奥村 充 神尾 重則 近藤 之暢  
 菊池 孝 進藤 幸雄 前田 暢彦 松崎 潤 松本 学

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993



## ひかり輝く未来づくりを 地域とお客さまとともに。

— わたしたちたましんは、  
 多摩を活動地域とする  
 地域金融機関として、  
 多摩の地域社会の未来のために、  
 総合的・積極的にサポート  
 しています。



リスル  
RISURU



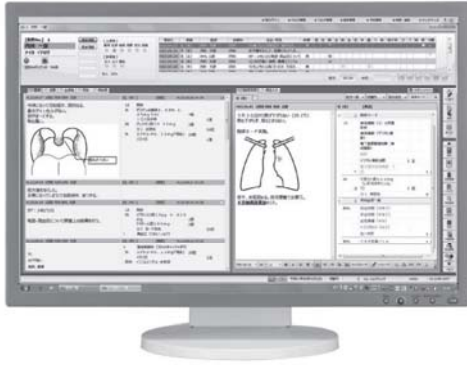
リスルはたましんのイメージキャラクターです  
 © 2003, 2015 SANRIO CO.,LTD. APPROVAL No.G553334

多摩信用金庫

[SIMPLE] × [SPEEDY]

クオリス  
**Qualis**  
Medical Station

日々の診療を支える  
電子カルテ、「クオリス」。



<製品の特徴>

- わかりやすい・操作しやすい画面レイアウト
- 診療アラーム機能搭載
- 使いやすい
- 外注検査のオンライン（指定検査会社）
- 安心のサポート体制、セキュリティ構成



株式会社 **ビー・エム・エル**

インフォメーションセンター  
TEL: 049-232-0111

健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて・・・  
**(株)武蔵臨床検査所**

食品と院内の環境を科学する  
**F・S サービス**

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8  
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659